

- 1 日 時 2024年(令和6年)10月30日(木) 5校時
- 2 学年・組 1年2組 (男子 18名 女子 14名 計 31名)
- 3 単元名(教材名) Here We Go! ENGLISH COURSE1 Unit6 Cheer Up, Tina (Round3)
- 4 単元(教材)で育成する力

(1) 単元観

本単元では、中学校学習指導要領外国語における「書くこと」の「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」を受けて設定している。

内容は、普段は快活であるが、慣れない日本の環境に適応しようと頑張ってきた主人公 Tina が疲れを出し、家族が心配するというストーリーが設定されている。遠く離れた祖父母が Tina の様子を聞いたり、弟の Nick が応えたりする中で、三人称単数の肯定・否定・疑問文が使われている。

終末に、ALT に、自分の友だちを紹介する言語活動を設定することで、生徒にとって身近な人について、事実や自分の考え等をまとまりのある英文で表現するのに適した単元である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、英語の活動を楽しんでおり、意欲的に取り組む生徒が多い。「授業では自ら学ぼうとしている」「授業で考えることが面白い」「授業の内容はよくわかる」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は、それぞれ89.7%、82.7%、93.1%である。会話活動やT-Sインタラクシオン、また教科書の内容を振り返るような活動に対しては繰り返し学習しているため、よく理解し、覚えている。多くの生徒が自分の言いたいことや教科書内での表現を積極的に活用しようとしている。一方で、実際のコミュニケーションにおいて、文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択する力、場面に応じて言語材料を正しく使って文(短文)を書く力に課題がある。

<誤答例>

- ・ What do you like subject?
- ・ I am play soccer.
- ・ I favorite English.

(3) 指導観

帯活動の中でIやyouなど、一人称と二人称を主語としたbe動詞と一般動詞の文を整理した上で、主語が変わった際のbe動詞is、三単現の-(e)sを理解させる必要がある。ラウンド4で文構造を意識して音読できるようにするため、ラウンド3で徹底的に文字を読めるように意識させながら音読させたい。視覚的支援、ICTを活用しながら、動詞の語形変化に注目して読めるよう指導を行う。

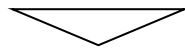
5 単元（教材）の観点別評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【書くこと】 <知識> 三人称単数を主語とする一般動詞を用いた文の構造を理解している。 <技能> 身近なひとについて説明したりたずねたりする文を、一般動詞を用いて書く技能を身に付けている。	【書くこと】 ALTにクラスのことをより知ってもらうために、適切な組み立てと表現で、自分の身近な人について、その人の良さが伝わるように紹介する文を書いている。	【書くこと】 ALTにクラスのことをより知ってもらうために、適切な組み立てと表現で、自分の身近な人について、その人の良さが伝わるように紹介する文を書こうとしている。

6 本校で身に付けさせる 21 世紀型 “スキル&倫理観”

★本単元（教材）で身に付けさせる 21 世紀型 “スキル&倫理観” の重点

課題発見・解決力	論理的思考力・表現力	協働性	自己指導力
課題を見つけ、解決の道筋を見いだす力	根拠を持って相手を説得する力	自他を認め合い思いやる態度	自らの行動を律し高まろうとする態度



単元（教材）で育成する力を踏まえ、重点とした 21 世紀型 “スキル&倫理観” を身に付けた生徒の姿相手に伝わりやすいように内容を整理して、適切に身近な人を紹介する文を書くことができる。

7 指導と評価の計画

Round	主な学習活動	評価に関する視点	評価方法
1	リスニングを中心に、教科書のストーリーの概要を、ピクチャーカードを使って理解する。	・表現の細かい部分にこだわることなく、ストーリーの概要を理解することを目指す。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分に留意する。
2	Round1 で内容理解したストーリーの音と文字を一致させる。	・ストーリーの英文を正しい順番に並べ替えることができ、音と文字を一致させることができる。	
3 本時	Round1 で内容理解し、Round2 で音と文字を一致させたストーリーを音読する。	・ストーリーの内容を初めて聞く人にも正しく伝わるように、正しい発音やアクセント、イントネーションで音読することができる。	
4	Round3 で音読した内容を、自分の表現に少しでも結び付けられるよう、フレーズや言語形式に着目しながら音読をする。	・語句抜きシート・語句並べかえシートを使って正しい発音やアクセント、イントネーションで音読することができる。	
5	これまで練習、理解してきたことをもとに、教科書のストーリーを自分の言葉で伝えるリテリングを行う。	・自分だけでなく、他の友達のリテリングを聞きながら、ストーリーの内容を自分の言葉で伝えることができる。	

後日	①身近な素敵な人を紹介する文を、その人の良さが伝わるように書き、ALT に発表をする。 ②紹介した内容に関する ALT からの質問に答える。	・適切な組み立てと表現で、自分の身近な人について紹介文を書いている。	パフォーマンス 課題 ワークシート
----	---	------------------------------------	-------------------------

8 本時の展開

学習内容	指導上の留意点	観点評価（方法）
1. Warm-up ①Small talk ②一般動詞の確認	○話題について十分に T-S インタラクションを行う。 ○一般動詞の Input はテンポよく行う。	
Goal: Unit6 のストーリーをスライドの絵に合わせて音読しよう。		
2. Unit 6 のストーリーの振り返り	○何枚かのピクチャーカードを選んで見せ、ストーリーのポイントを思い出せるようにする。 ○登場人物の気持ちを確認し、どのように読むのが良いか考えさせる。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分に留意する。
3. Unit6 の音読 ①全体で音読 ②個人で音読	○発音やリンキングを意識しながら音読をすよう促す。 ●デジタル教科書を使い、音声を確認しながら、個人のペースで何度も練習を行う。 ★デジタル教科書	
4. アフレコ Reading	○ロイロノートに送ったカードのスライドに合わせて、登場人物になりきって音読するよう伝える。 ○どのように読むのが良いか、グループで考えた上で Reading を行うよう伝える。 ★ロイロノート	
5. 本時の振り返りと次時予告		

9 授業の様子 (ICT 活用場面)

① 授業者はロイロノートでの問題配信を行い、生徒は個人で文法事項の確認をしている。



② デジタル教科書を使って、全体で音読をしている。



③ 生徒用（個人）のデジタル教科書を使いながら、発音を確認する生徒、同じ個所を何度か繰り返して音読の練習をする生徒など、自己のペースで音読練習を行っている。



④ 役割を決めてアニメーションに合わせてアフレコーディングを行っている。



10 研究授業の協議（表現力向上チーム）

校内研修

表現力向上チーム@池岡先生（英語）

表現することが楽しいと思える生徒

一人称や二人称，三人称準
数を文字から音声にできる

Yuna IKEDA

	成果	課題
教科の 目標	- デジタル教科書を使いながら音読練習ができていた - 繰り返ししたり，速度を遅くしたりして各々が練習していた（個別最適？） - 教科書にカタカナで発音を書いていた - be動詞を使う場面をリズムで覚えさせていた - みんなが話そうとしていた	- 一般動詞とbe動詞の違いを生徒が十分に理解できていない - 文法として教えるタイミングが難しい - クイズゲームを入れているから話す時間があまり取れていない - クイズゲームが楽しい≠英語のコミュニケーションが楽しい
学校教育 目標	- Small Talkで盛り上がった - 楽しそうに会話をしていた - 英語で話したい様子があった - 授業始まる前に調子乗っていた生徒がいた ←適度なスルーと拾いで，学びに向かわせた - 何人かの生徒が周囲を気にして，協同学習が働いていた	- HeやSheの中身が認識できている →文法に関する疑問は生じない - 子供達は表現と中身をセットで考えている
研究 テーマ		
目指す 子ども 像		
今後に 向けて		

後日話し合います！

成果	＜本時の目標※1等＞ - デジタル教科書を用いることで個人のペースで音読練習ができた。 - 各々が自分の課題を自覚しながら練習をすることができていた。
	＜学校教育目標※2・研究テーマ※3・目指す子ども像（表現力向上チーム）※4＞ - 何人かの生徒が周囲を気にかける姿があり、協働的に学び合っていた。 - 楽しそうに英語で会話することができていた。 - 自分の知識で、どうにか英語で思いを伝えようとする姿が見られた。
課題	＜本時の目標等＞ 文法事項の定着を図るための ICT 活用を行い、様々な機会でも繰り返し文法事項を確認する必要がある。
	＜学校教育目標・研究テーマ・目指す子ども像（表現力向上チーム）＞ - 英語で会話する時間を増やす必要がある。 - 英語クイズゲームの楽しさと英語のコミュニケーションの楽しさは別物であり、コミュニケーションの楽しさを感じる授業づくりが大切だと考える。
今後に向けて	- デジタル教科書を効果的に用いて個人のペースに合わせた学習を行っていく。 - 通常の会話で ICT を使うことはないため、授業内でも会話場面で ICT を使うことは難しいが、文法の確認等で ICT を使う。 - 教育現場に特化したロイロノート等ではなく、社会に使われている Google Workspace 等のツールを用いての表現活動を模索する。

※1 本時の目標：Unit6のストーリーをスライドの絵に合わせて音読しよう。

※2 学校教育目標：自立・貢献

※3 研究テーマ：探究的・対話的で自ら学びを深める授業の実現

※4 目指す子ども像：表現することが楽しいと思える生徒
（表現力向上チーム）